

## 研修報告書 No 29

今回私は大学病院の研修プログラムの一環として、高知県の佐〇〇町立〇△病院で1か月の研修を行った。たった1か月という短い期間であったが貴重な経験であった。この経験が少しでも何かの役に立てばと思ひ報告させていただく。私は研修開始当初から僻地の研修を希望していた。理由はいくつかある。私の研修病院では、2年間の研修のほとんどが大学勤務で、専門性の高い医療に接することが多く、必要であると思われる検査・治療のほとんどを行うことができる。私は今後も大学病院で勤務していくことになると思うが、大学病院以外の中核病院や僻地の診療所などではどのような医療が行われているのか、実際に医師不足といわれている地域ではどの程度の医療を行えているのかなど、自分の目で一度見てみたいという思いが強かった。また、将来内科または小児科に進む上で総合診療の側面を勉強したいと思っていた。四国の観光がしたいというのも一つの大きな理由である。以上のような理由から私は僻地医療を、とりわけ高知県での研修を希望したのである。初日空港に到着し、担当の方の出迎えを受け早速研修先の〇△病院へ向かった。田舎育ちの私にとっては〇△病院は想像より田舎ではなかった。〇△病院のスタッフの方々も大変優しく、この先1か月の不安が一気に期待へと変わった。また検査設備も整っており、想像以上の大きな病院であった。翌日から早速研修が始まり、月曜日から金曜日まで盛りだくさんの内容が組み込まれていた。どれも大学病院では経験できないような内容であったが特に印象に残っているものについていくつか述べる。ケアマネージャーとの家庭訪問では、人が住んでいるとは思えないような山奥に住む一人の高齢者を訪ねた。高知県に限らず、一人暮らしで不便なことがあっても自宅で過ごしたいと考える高齢者は多く、彼らにとって訪問看護、訪問診療、ケアマネージャーによる家庭訪問などはなくてはならないものであると感じた。2週目以降は様々な施設の訪問をした。デイケアやデイサービスなど実際に高齢者がどのように1日を過ごしているのかを目で見ることができ、介護制度についても学ぶことができた。そして、1か月間の研修中もっとも印象に残っているのは診療所での研修である。3日間という大変短い期間であり、もう少し長くいられたらと思うところであるが、大変良い経験になった。診療所も私の想像より検査の施設は整っていたが、医師の人数はやはり少なかった。二人の医師で入院、外来をこなしており1か月の半分程度が当直であると聞いて驚いた。患者は、血圧のコントロールから心肺停止まで緊急度、重症度は様々で総合診療の観点から大変勉強になると思った。ドクターヘリの設備も整っていたが天候や時間に制限があり、救急搬送の際には数時間を要することもしばしばあると聞いた。また、医師不足は深刻で大学病院ではあふれている医師が、この地域ではたった一人確保することが本当に難しいとのことであった。同様のことは中心部でも起きているようで、産婦人科や新生児科の医師が少なく、せっかくの設備があっても有効に利用できていない現状があるという。高知県は私が働いている地域に比べ高齢化率が高く、医療の需要は高く、一方で在宅医療や介護制度など地域と密着した医療が重要であると感じた。高知県での研修で、私はいかに恵まれた環境で医師として働いているのかを実感した。自分のキャリアアップの為には、大学病院のような専門性の高い施設で働くことも大事だが、今回研修した病院や診療所のように総合診療としての幅広い知識を必要とする医療を経験す

ることも必要なのではないかと思った。今まで見たこともなかった僻地での医療を経験し、私の医師としての人生で生涯忘れることのできない経験となった。関わってくださった多くのスタッフの皆さんには本当に感謝したい。